

科目番号	1405	領域区分	医療保健情報学領域		
学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数	
1・2	後期	選択	2	30	
授業科目名 (英文)	ヘルスインフォマティクス特論Ⅴ【薬剤情報特論】 (Health Informatics V: Pharmaceutical Information and Science)				
担当教員名	折井 孝男				
授業の概要及び到達目標					
医療の世界は私たちが考えている以上に速い速度で変化している。このグローバルな変化に対応するためには、医療情報に従事する人たちがスピード感を持ち、世界の中での日本で対応していくことが大切である。つまり、パラダイムシフトを意識することが大切である。しかし、ここで国民の医療に対するニーズなどを知ることも非常に大切なことといえる。現在、日本の医療が直面している問題としては、少子高齢化に伴う疾病構造の変化、診療技術の進歩による医師および患者や患者の家族自身にとっての選択の多様化、情報化社会がもたらした患者権利意識の普及など、未曾有の事態といえる。このように医療の変化の速度に医療情報が遅れては医療が成り立たないこととなる。的確な医療（薬剤）情報を捉えるためにも最新の医療に関する情報を収集・解析・伝達、そして連携することが必要といえる。さらに、多くの医療スタッフとの連携（チーム医療）を念頭に、臨床、社会における医療（薬剤）情報の実際について習得すると共に情報の利活用について学ぶ。					
準備学習等					
現在では病院内の情報化の進展にかかわらず、その情報化が病院の外にまで及んでいるかということを見た場合、そのような例は様々な形でできているといえる。患者の立場から考えてみると、診療は病院だけで終わるものではないからである。病院受診の前には診療所などで診察を受け、市中の保険薬局（以下、保険薬局）でお薬を受け取ることもある。病院受診、あるいは入院後にはふたたび開業医などを受診し、保険薬局でお薬を受け取る。このような場合、保険薬局の薬剤師は病院の薬剤師と同様にその患者の診療にかかわる情報を必要としている。このように考えれば、患者を中心に病院と保険薬局はその患者の情報を共有してこそ良い医療ができるはずである。このようなことから本授業における準備学習は、医療における医薬品等に係る情報を意識して広範囲に知っておくことが望まれる。（例えば、医薬品のインターネット販売、電子処方箋等） 講義・演習に要する算定基準：教室内を主とし1時間×15週、プレゼンテーションのための情報収集（予習・復習）15時間（1時間×15週）					
成績評価の方法	出席状況（50%）、およびプレゼンテーション、討論等（50%）により総合的に評価する。				
テキスト	特に指定しない。（ハンドアウトの有無：有）				
参考図書					

備 考	
授 業 計 画	
1) オリエンテーション 1 2) 医療における薬剤情報 1 (医薬品のながれ) : その役割を説明できる (その 1) 3) 医療における薬剤情報 2 (医薬品のながれ) : その役割を説明できる (その 2) 4) 病院情報システムと薬剤部門システム 1 : その役割を説明できる (その 3) 5) 病院情報システムと薬剤部門システム 2 : その役割を説明できる (その 4) 6) 病院情報システムと薬剤部門システム 2 : その役割を説明できる (その 4) 7) 医薬品とコード (その 1) 8) 医薬品とコード (その 2) 9) 薬剤情報の利活用 : その役割を説明できる (その 1) 10) 薬剤情報の利活用 : その役割を説明できる (その 2) 11) 薬剤情報の利活用 : その役割を説明できる (その 3) <最近の話題> 12) 医薬品の情報・ICT (Information and communication technology) その役割を説明できる (その 1) 13) 医薬品の情報・ICT (Information and communication technology) その役割を説明できる (その 2) 14) 医薬品・社会・情報・ICT、その役割を説明できる (まとめ 1) 15) 総括	